

腸管出血性大腸菌感染症

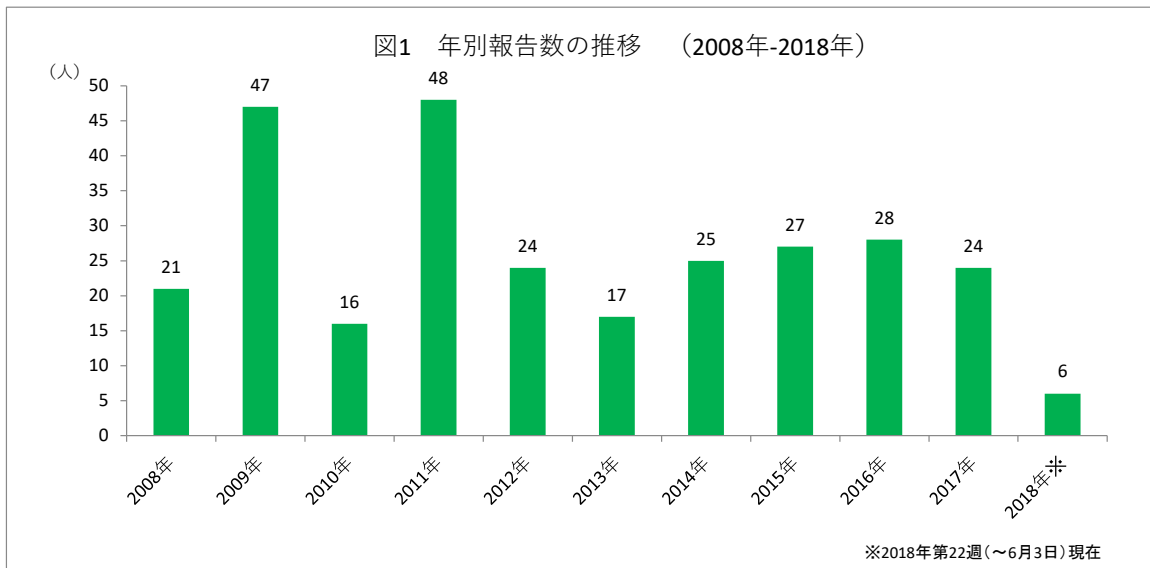
腸管出血性大腸菌とその予防について

[→サイト内ページへ移動](#)

・・・別紙

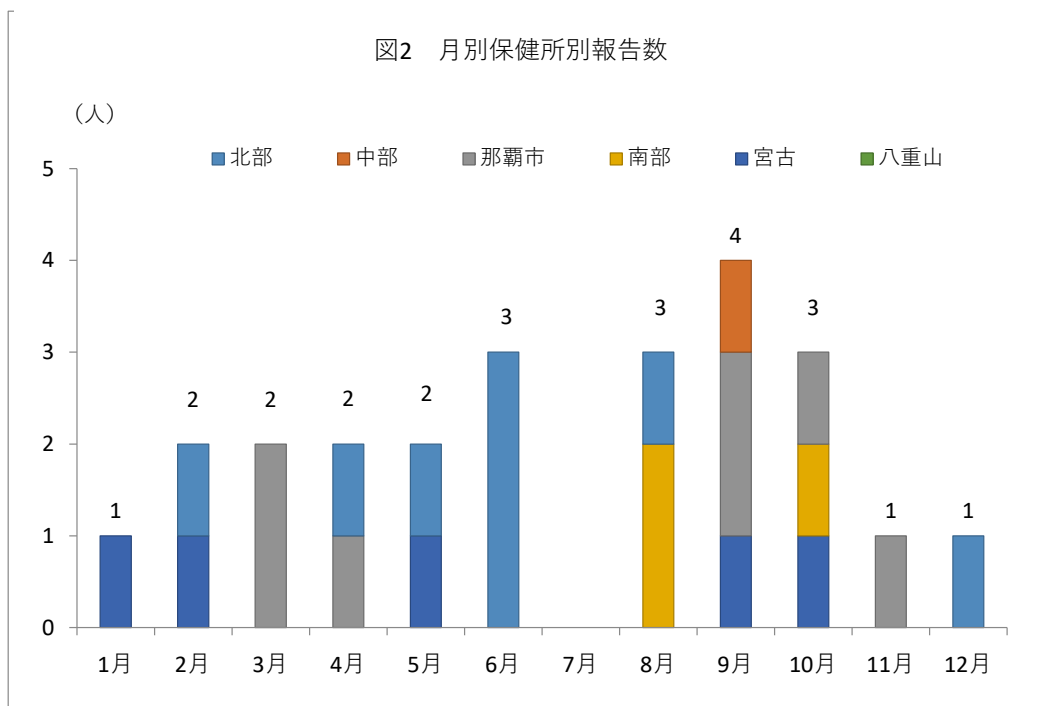
1 年別報告数の推移(2008年-2018年)

- ・ 県内の報告数について、2017年は24人でした。2014年以降は20人台で推移しています。
- ・ 2018年22週（～6月3日）現在の報告数は6人となっています。



2 月別届出受理保健所別報告(2017年)

- ・ 例年、夏場に多くなります。
- ・ 2017年の保健所別報告数は、北部8人、那覇市7人、宮古5人、南部3人、中部1人、八重山0人となっています。



3 性別年齢別報告（2017年）

・男性46%、女性54%となっています。

年齢別では、20-29歳が最も多く（7人_29%）、次いで0-4歳と30-39歳（5人_21%）となっています。

図3 男女別報告（2017年）

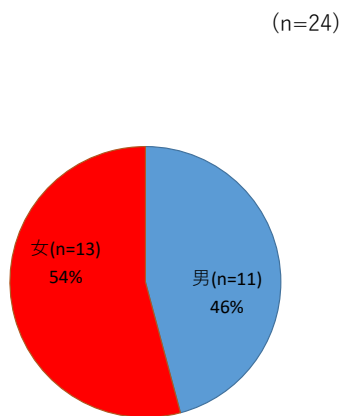
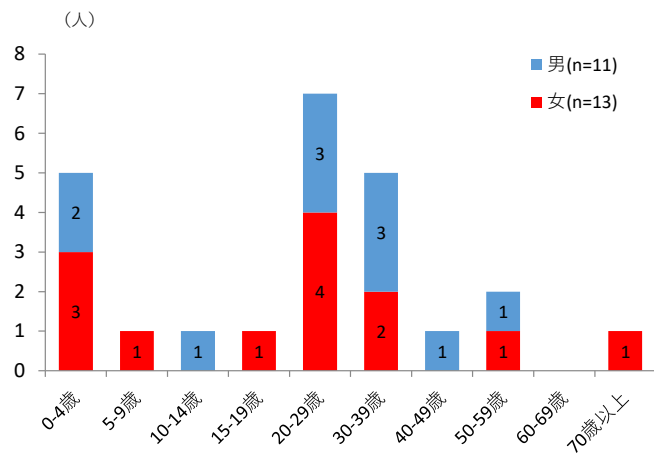


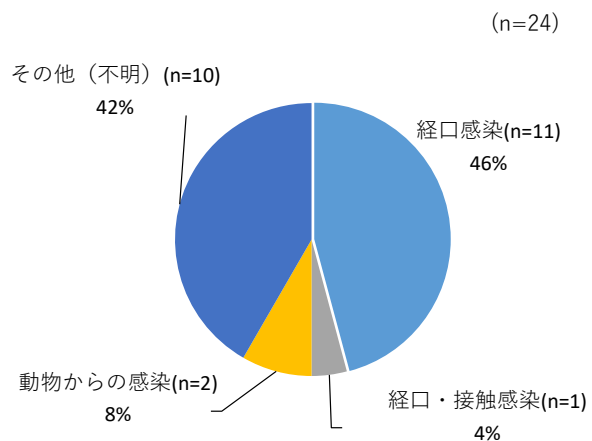
図4 性別年齢別報告数（2017年）



4 推定感染経路（2017年）

「経口感染」が最も多く、次いで「その他（不明）」となっています。

図5 推定感染経路



5 症状 (2017年)

- ・患者が67%、無症状病原体保有者が33%となっています。未成年の多くは有症者（患者）ですが、成人は無症状（無症状病原体保有者）となる場合があります。
- ・患者の主な症状は、水様性下痢が88%、腹痛63%、血便31%、発熱25%となっています。

図6 症状別報告割合 (2017年)

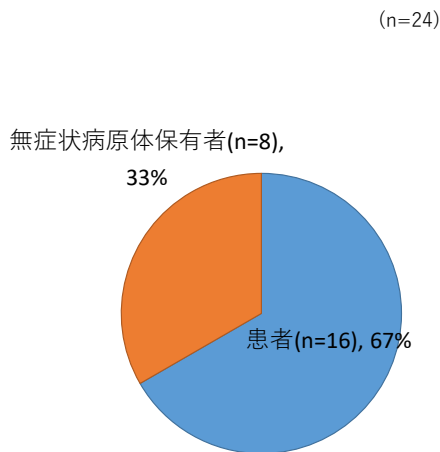


図7 年齢別症状別報告数 (2017年)

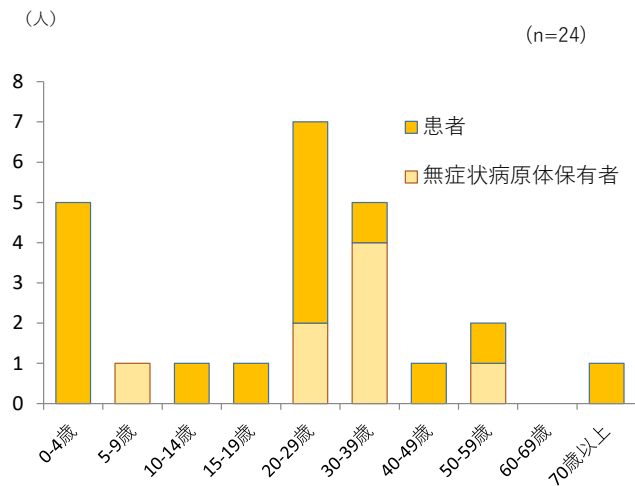
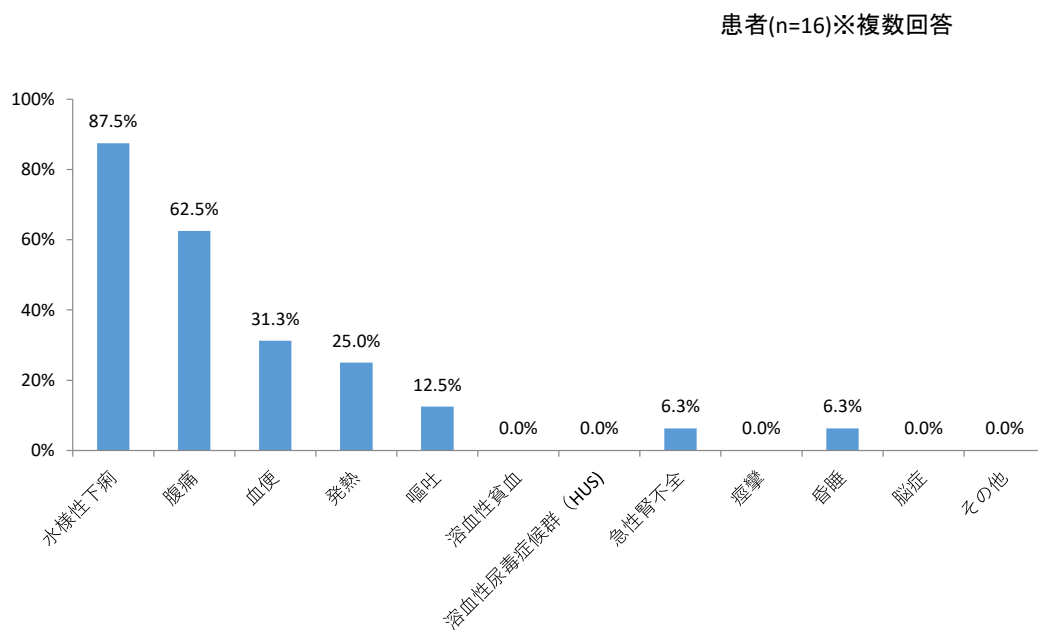


図8 臨床症状 (2017年)



6 血清型・毒素型（2017年）

・血清型別ではO-157が、毒素型別ではVT1が多くなっています。

・血清型、毒素型別ではO111 VT1（4例）、O26 VT1（3例）で多くなっています。

表 1 腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型（2017年）

血清型	毒素型				計
	VT1	VT2	VT1	VT2	
O 25	1				1 (4.2%)
O 26			3		3 (12.5%)
O 91	1				1 (4.2%)
O 103			1		1 (4.2%)
O 111			4		4 (16.7%)
O 121				1	1 (4.2%)
O 128			1		1 (4.2%)
O 145			1	1	2 (8.3%)
O 157	2			1	2 (20.8%)
不明	2		1	2	5 (20.8%)
計	6	11	5	2	24 (100.0%)
	(25.0%)	(45.8%)	(20.8%)	(8.3%)	(100.0%)